

## 事例 2 空調設備

ヒアリング、現地確認の事例	助言等のポイント
<ul style="list-style-type: none"> <li>・空調範囲の最小化（間仕切り、天井高の低下）、空調空間に存在する熱源からの放熱、排熱の防止など空調負荷を最小限に抑える工夫が実施されている。</li> <li>・空調範囲を狭めるため、間仕切りを多用している。</li> <li>・成層空調システム（置換された熱気を天井に持ち上げ、地上 2m の作業域のみ冷房を行う空調システム）を導入している。</li> <li>・工場内の作業領域の温度は 30℃を目標としている。</li> <li>・押し出し機など熱源になる設備は放熱防止のため、保温している（保温できないところはビニールシートで囲っている）。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空調範囲の最小化、空調負荷となる熱源からの放熱等の最小化を実施されている好事例である。</li> <li>・これらの対策は、工場建屋の設計段階から想定されていたものでなく、後付けで実施されたものである。</li> <li>・ここまで実施されている事業者は省エネに対する意識が非常に高く、事例で挙げている対策以外にも様々な対策にチャレンジされている。</li> </ul>



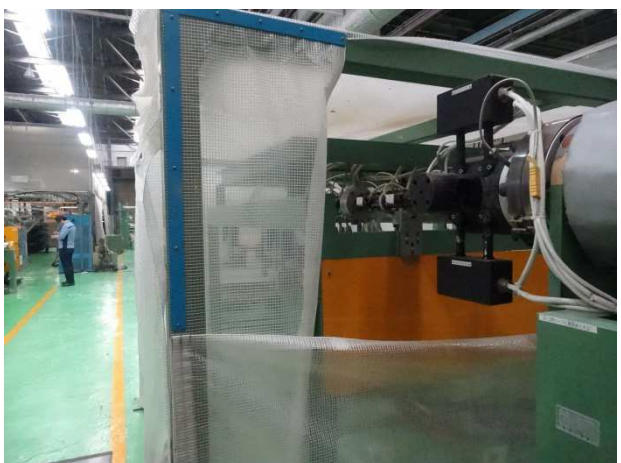
ビニールシートを用いた間仕切り（写真左奥）



ビニールシートで天井を低くしている



押し出し機のヒータ部の保温



ビニールシートで押し出し機を囲っている